

和歌山県立医科大学附属病院医療安全監査委員会の実施について(報告)

和歌山県立医科大学附属病院医療安全監査委員会規程第3条第1項の規定に基づき、令和2年度第2回和歌山県立医科大学附属病院医療安全監査委員会を実施しましたので、以下のとおり報告します。

1. 開催日時 令和3年1月5日(火) 15時～17時10分
2. 場 所 和歌山県立医科大学附属病院中央棟4階 大会議室(オンライン開催)
3. 出席委員 委員長 山口 悦子(大阪市立大学)
副委員長 中川 利彦(パークアベニュー法律事務所)
委員 石井 浩子(NPO 法人いきいき和歌山がんサポート)
4. 院内出席者 病院長・管理者 山上 裕機
医療安全管理責任者・副院長 中尾 直之
医療安全推進部長 水本 一弘
医薬品安全管理責任者・薬剤部長 松原 和夫
医療機器安全管理責任者・臨床工学センター長 重松 隆
臨床工学センター工学技士長 中村 一貴
事務局次長(病院担当) 山中 宏夫
5. 議事次第 (1) M&Mカンファレンスの取組について
(2) 医療機器の安全管理について

6. 監査結果

(1) M&Mカンファレンスの取組について

- ・ M&Mカンファレンスを早くから実施されていること、階層的に実施されていることについては、非常に優れている点だと思う。
- ・ 誰が悪いというような後ろ向きな話と違い、医療の向上、システムの改善といった前向きな話として区別しているところは非常に大事で、うまく運営していると思う。
- ・ 対象となるイベントなどの基準が設定されていない、また定期的な実施が行われていないため、M&Mカンファレンスの重要性に鑑み、まずは診療科合同によるカンファレンスの定期的な開催を実現していただきたい。基準を設定し、あげるべき事例をきちんとあげる取組をしていくことで、一層質の高い医療の提供につながると思う。

(2) 医療機器の安全管理について

- ・ マニュアルや取扱説明書がweb上で見られること、広報誌がカラーや写真で理解しやすくなっている点は良かった。研修については、参加者が主導して役割分担を行

い、振り返りができるようになっていること、少人数で集中して学習できることが良かった。

- ・ 臨床工学技士の人員体制、夜間の勤務体制について、充実していただきたい。

(3) 総評

- ・ 2つの議題を通して「職員のやりがい」、「標準化」、「学習」という3つのキーワードがあった。
- ・ 臨床工学技士を全員常勤として雇用するなど、職員が働きがい、仕事の喜びを持って医療に取り組める状況を作っており、医療安全体制の基本として重要な Joy in Work を実践されていることに感銘を受けた。
- ・ 患者さんにとっての無駄を省き、標準化を図ることは、職員の働きやすさも推進する。マニュアルがすぐに分かるというのも職員に大変親切だと思う。M&M カンファレンスの症例の基準の設定も標準化であり、標準化がしっかりしているとコンセンサスも得られやすいので、これが2つ目のポイントだと思う。
- ・ M&M カンファレンスなどの学習の場づくりが丁寧に行われている。医療機器の研修についても、少人数制で丁寧に行われていることに感心した。また、つらい経験や自分の失敗を共有できる組織、失敗を糧に学習できる組織作りにおいて、一歩踏み出しているという点に感心した。
- ・ 学習する組織作りを通じた親切的な病院の推進を今後も引き続き行っていただきたい。

和歌山県立医科大学附属病院医療安全監査委員会
委員長 山口悦子